

小児歯科 専門医 少なくな

子どもの歯にむし歯やかみ合わせの異常が見つかったり、転んで歯が欠けたりしたら、どこを受診すれば良いのだろうか。

国内の歯科診療所の6割(約3万9000施設)が「小児歯科」を標榜する。しかし、幼い子どもは、母親から離れられない、一人で座れない、泣いて治療を嫌がる、といった特徴があるため、十分対応できない施設も少なくない。

そこで今回は、日本小児歯科学会の専門医が所属する813医療機関にアンケートを送付、470施設(58%)から回答を得た。専門医は、小児歯科の知識と技術があると認定された歯科医師で、わずか1149人。赤ちゃんから診療し、2011年には回答施設の7割が0歳児を診察していた。むし歯になりやすい時期は、歯

病院の 実力

122

が生えてから2、3年だ。子ども時代にむし歯を予防すると、生涯にわたる歯の健康につながる。このため、最近では健診に力を入れる医療機関が多い。

一覧表では、11年に専門医が担当した患者のうち、18歳未満の患者の割合が80%以上の施設を掲載した(該当がない県は最も割合が高い施設)。小児専門診療所を開業したり、歯科病院の小児歯科に所属したりする専門医は、18歳未満の患者の割合が高くなる。開業

子どもの緊張 和らげる工夫

する専門医の中には、大人も積極的に診察するケースもある。

表には、11年に診察した子どもの外傷患者数も記した。けがの範囲や程度を把握し、一人一人の歯や顎の発育状況を考慮した対応が求められる。

鶴見大(横浜市)歯学部小児歯科教授の朝田芳信さんは「専門医は、技術や知識だけでなく、子どもの心もよく理解しています」と話す。いきなり治療に入らず、わかりやすい説明や歯磨きの練習から行うなど、子どもの緊張を和らげる様々な工夫を行っている。

親や子を対象に講座や集いを開く施設もある。実施状況を示した。こうした催しに参加し、食習慣や応急処置の正しい知識を得て、子どもの健やかな歯を守りたい。

(中島久美子)

来週は「ケアノート」です

くらしの健康